高体連　日南・串間支部教科研究委員会の研究

１．研究主題

『豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育て、健康の保持増進と体力の向上を図る保健体育科学習の在り方』

～　“かかわる”を重視した保健体育科学習の実践をめざして　～

２．主題設定の理由

　知識基盤社会といわれる中、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知識や価値を創造する能力が求められている。また、グローバル化が進み、多様な集団の中で交流する能力や、自分と異なる意見や考え方を認めたり、様々な価値観をもった人の中でコミュニケーションをとったりする力も必要とされている。このような状況において、人々の健康や体力をめぐる考え方やスポーツに親しむ習慣も時代とともに変化してきており、肥満や心の問題などがクローズアップされ、子どもの体力・運動能力も停滞傾向にある。また、少子化や情報化など社会の急激な変化によって児童生徒の生育環境や生活行動、さらには国民の疾病構造の変化などから、地域や学校の実態に応じて、養護教諭等の専門性を有する教職員等の参加・協力を推進し、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を行うことは思考力・判断力等を育成することにつながる。更には、東日本大震災を経験し、防災教育の充実も今後の保健体育科学習への大きな課題となってきている。このような実態から学校体育に求められる課題としては、①運動への二極化 ②体力の向上（停滞傾向の脱却）③運動の日常化など、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、保健の課題としては、①基本的生活習慣の確立 ②メンタルヘルスに関する問題 ③性教育の充実 ④防災教育の充実などが挙げられる。

　このような現状から、学校体育において、体育や保健授業ともに生徒が興味・関心を持ち、主体的に授業に取り組めるように、「わかる・できる・かかわる」授業づくりを目指し、学習資料・学習指導を工夫することは、生徒間の「かかわり」、教師との「かかわり」、学習教材・学習教具との「かかわり」を通じて「楽しい」と実感できる授業づくりにつながると考え、本主題を設定した。

３．研究仮説

　生徒の生活環境や運動経験等の現状を踏まえた上で、学習内容の確実な定着を図るための指導方法、ワークシートやスキルアップテキスト集等の学習資料の活用方法を工夫することで、生徒の発達段階に応じた「わかる」「できる」「かかわる」学びのサイクルを生み出し、「楽しい」と実感できる保健体育科学習ができるのではないか。

４．研究内容

　次の研究内容について、研究の推進を行った。

（１）『学習資料の意図的・計画的な活用について』

　　県高体連教科研究委員会と連携を取り、一昨年の学体研都北地区大会で作成された『ネット型：バレーボール』のスキルアップテキスト集や競技専門部（柔道）の先生が作成されたスキルアップテキスト集を単にスキル向上を目的とした学習資料から、生徒の発達の段階に応じた「態度」を身に付けさせるための学習資料となるように研究した。また、かかわり合いを大切にする授業を展開し、日南・串間地区の小・中・高・特の研究テーマである『かかわる』という態度の内容をワークシートの項目とリンクさせ、指導と評価が一体化するように工夫した。

（２）『保健学習における養護教諭との連携について』

　　日南・串間地区では、長くから支部総会に養護教諭も参加しており、保健体育科と養護教育について連携して取り組んできた経緯から養護教諭との「かかわり」に着目し研究を進めることにした。また、近年、宮崎県では養護教諭の保健学習への積極的参加を課題の1つに挙げられている。文科省からも提言されているデング熱、エボラ出血熱、ＭＡＲＳなどの感染症、がん教育や性教育など保健授業の中で指導しなければならない専門的な知識が必要である。そのため日南・串間地区では、養護教諭の配置数、生徒の実態、かかわり方、指導形態など各学校の実態に応じた適切な連携の構築を行うこととした。

【平成２７年度】（本年度）

「保健学習のどの部分にどのように養護教諭がかかわるのか」

1. 学習指導要領と教科書を確認し、学校の実態に応じてかかわり方を探る
2. 指導形態の在り方を試していく

　　・授業に対するかかわり方（ＴＴ方式、ＧＴ方式、講話形式など）

　　・学校行事との関連（性教育講演会、交通安全教室、心肺蘇生法講習会など）

　　※各学校で実践後、「養護教諭とのかかわり実践報告書（仮称）」の提出を依頼した

【平成２８年度】（研究２年目）

　「各学校での保健学習における養護教諭のかかわり方の実例」

1. 前年度の検討を踏まえての実践
2. 学校行事や学校の実態、社会事情を踏まえた取組
3. 具体的実践例、年間のかかわり方のまとめ

※授業実践をもとに各学校での授業報告を行ってもらい。授業反省会を実施し、報告書を提出し、情報の共有を図ることとしている。

【平成２９年度】（研究３年目）

　「保健学習における養護教諭との連携」

1. 実践例をもとに、養護教諭参加型の効果を検討していく
2. 研究のまとめ

※３カ年の取り組み状況や各学校の実態に応じた適切な養護教諭との連携の仕方をまとめ、報告書を提出し、情報の共有化を図ることとしている。

５．研究の実際

（１）『学習資料の意図的・計画的な活用について』

　　スキルアップテキスト集を活用することによって、教師や仲間との『かかわり』、教材との『かかわり』合いを通じて、「技能」「態度」「知識、思考・判断」のバランスのとれた学習活動が可能になった。学習資料の選択方法を工夫することによって、①教師から生徒へ②自分（同チーム）から自分（同チーム）へ③他者（他チーム）から他者（他チーム）へなど個々の運動経験や能力、課題に適したスキルアップテキスト集の選択方法により、主体的に課題を解決する学習活動を展開することができた。また、日南・串間地区の小中高で研究した態度の内容におけるゴールイメージをワークシートの項目に取り入れ、生徒同士が相互評価できる書式にした。



南那珂地区での態度の４観点を項目に入れつながりあ

る学習資料になる

よう作成した。

（２）『保健学習における養護教諭との連携について』

　　各学校の実態に応じた養護教諭とのかかわり方を探るために、実践報告書の作成を依頼している状況である。各学校で使用している教科書や学習指導要領をもとに、また、保健授業のみならず、心肺蘇生法講習会、性教育などの学校行事でのかかわり方など各学校の実態に応じた取り組みが明記できるように実践報告書の書式を作成した。



各学校の実態に応じた養護教諭とのかかわり方を検討後、実践報告書の提出をお願いしています。それを年度末に検証し、次年度へ生かす。

６．研究の成果と課題

（１）『学習資料の意図的・計画的な活用について』

【成果】

○単なるスキル向上のための学習資料の活用から、個人やチームの課題解決に応じた活用方法を工夫した結果、生徒同士が能動的に学び合う活動が実践できた。

○スキルアップテキスト集の活用方法を工夫することで、生徒の発達段階やスキルの定着状況に即した効果的な指導ができた。

【課題】

●今回の研究での反省・改善を生かし、今後も継続的に考察を図り、更なる研究の推進を図る。

（２）『保健学習における養護教諭との連携について』

【成果】

○研究初年度で把握した内容を次年度以降に生かしていきたい。

【課題】

●各学校の養護教諭の人員数などで取り組み方に差があった。

**※体育と保健の考え方**

参考文献：鹿屋体育大学　佐藤豊先生より提供資料

